

項目	時間	概要、関連資料等
初めに	9:20 ~ 9:30	「初心者に配慮したイベントであるとともに、経験者にも満足してもらえる大会を志向し、ホスピタリティある愛好者を育て、かつ会員の資質向上を図りスムーズな世代交代を促進する。
1. 大会準備計画	9:30 ~ 9:50	年間スケジュール、大会要項
(1) テレインの選定		テレイン選定～大会開催まで
(2) 事前手続き		後援申請書、利用申請書、賠償責任保険申請(書)
(3) 広報		県協会サイト、orienteering.com、森を走ろう、おかやまスポーツナビ、くらしきスポーツナビ、山陽新聞情報広場、県レク広報誌、会場配布
(4) 競技分野(準備内容、必要備品)		大会準備要領
(5) 運営全般(準備内容、必要備品)		大会準備要領
(6) 事後処理		後援報告書、利用報告書、賠償責任保険報告、県協会サイト
2. 大会準備と運営		運営準備注意事項
(1) 設営		大会運営要領と担当、前当日事前準備事項、プログラム
(2) 当日運営		大会運営要領と担当、前当日事前準備事項、プログラム
(3) 備品管理		収納Box配置、回収忘れ防止、洗浄と清掃
3. 地図調査	9:50 ~ 11:00	
(1) 地図規程		J SOMとJ S S O M J SOMは1:15,000が基本、1:10,000は1.5倍にするだけ J S S O Mで通過不能は通過禁止、道の概念・等高線・urbanとnonurban等の相違 留意点(記号の大きさによる誇張、転位、取捨、最小寸法、最少間隔等)
(2) 調査技術		地図調査要領、Liderデータ展開手順
・基礎図		1:2500都市計画図は使用しない
・基盤地図情報、航空レーザ測量データ(Lider)		地図のコントローリング、ISO M2000解説資料
・調査基準の共通理解		ディレクター・インストラクタテキスト、西村氏資料
・調査技術(歩測、角度の測定、高さの測定)		Liderではほとんど修正する必要がない
・等高線の修正		
・走行度の共通理解		A:80~100m/30秒、B:60~80m/30秒、C:20~60m/30秒、D:20m以下/30秒 3秒で1/10(エリートで)
・GPSデータの活用		
・基盤地図情報、航空レーザ測量、Google航空写真の活用		VectorMapMaker、QGIS
・基盤地図情報とは、電子地図における位置の基準となる情報		
(3) GPSロガー測定		Trimble GPS PathFINDER JUNO 3B操作要領
日本測地系(~2000年)と世界測地系(2001年~)に留意		
(4) GPSデータのOCAD取り込み		Trimble GPS PathFINDER JUNO 3B取り扱い要領
地図データと別ファイルにして下絵にする		
Q-GISというshpファイルをdxfに変換するフリーソフトもある		
(5) フィールド調査		
フィルムはテラミスTR-300(松原商事)75μ、トンボは必ず3ヶ所以上		
シャーペンは0.5mmで2H以上、色鉛筆はMITUBISYI HARD7700番、100円ショップの電動消しゴムが便利		
経験者の調査に同行するのが技術習得とともに、等高線がよく見えるようになり競技者スキルも上達する。		

留意事項

- ・Oマップは競技者が走りながら現地と地図の対応関係に違和感をいだかないような水準であること。取捨あるいは表現方法のポイントはナビゲーション、コース、コントロールに使えるかで判断。
- ・湿地は走行度や地表の開け具合を示す植生記号と複合して使用すること。また、走行度Aのエリアでの荒れ地、空地などの地表の開け具合との複合に留意すること。
- ・地図規程は熟読し、調査時疑問が出た都度読み返し確認すること。
- ・調査は安全のため、長袖、長ズボン、長靴、手袋、(麦わら)帽子、蚊取り線香必須。ヘッドライト、棒も重宝。

4. OCAD作図 11:00～11:20 OCADマニュアル

(1) OCAD作図

必ずリアルワールド座標にする(平面直角座標系)

留意事項

- ・Oマップ作成ができることとOCAD操作ができることはイコールではない。OCAD操作は覚えれば簡単。
- ・フィールド調査後は時間をおかずに作図すること。(即日処理の原則)
作図後は必ず現地と照合確認し修正を加え完成させること。(表現の統一、間違い、記載洩れ等)
- ・留意点(誇張、転位、取捨と表現の統一、最小寸法、最少間隔等)
作図時には転位、最小寸法、最少間隔に特に留意
- ・Oマップ作成、コース設定、地図調査は深く関連しており、競技規則を含めた規定類全般を熟知しておくこと。
加えて競技者の視点での見方も重要であり、優れた競技者は優れた地図調査者になり得る。
また、優れたコース設定者、地図調査者は優れた競技者になり得る。

5. コース設定について

11:20～12:00 コース設定留意事項

- (1) コース設定の原則
- (2) コントロール位置について
- (3) 大会コース設定の手順
- (4) ルートプランニングの研究

関連規程、吉田勉氏作成スライド等
 関連規程、吉田勉氏作成スライド等
 関連規程、吉田勉氏作成スライド等
 JOA「初中級者向け指導教本」、大会コース図・ルート図等

留意事項

- ・15年度の大会要項から各クラスに技術レベルを記載するようにした。
- ・トレインを熟知しておくこと。またJOA指導教本(初中級者編)の技術レベルを理解しておくこと。
- ・最初に数多くのコース案(コースレイアウト)を作り、1ヶ月くらい時間をかけて絞り込む(アイデアの熟成)
- ・置いてみたいところに置いてみて、間のコントロールを外してみれば意外とよくなる。
- ・ロングレグ、ミドルレグ、ショートレグおよび脱出角度の変化を組み合わせる。
- ・コースの良し悪し、難易度はコントロール設置位置ではなくレグである。
- ・ウイニングタイムは、過去のコース記録、キロ当たりの時間想定、自分が走った場合の時間などから想定する。

6. OCADコース作図

13:00～13:30

- (1) OCADコース作図の手順
- (2) 留意点(配置、印刷条件等)

OCADコース設定手順
OCADの色と印刷の調整について

7. OCADを使ってのコースプランニング

- (1) プランニングの実際

繰り返しやってみるのが一番

留意事項

- ・位置説明表記は間違い漏記がないか繰り返し確認すること。(特に相対方向、方位表現、サイズ等)
- ・16倍拡大位で位置精度、印刷範囲等確認後コース地図エクスポート。
この段階ですべてまたは を保護処置しておくのがよい。
- ・エクスポートされた個々のコース図ごとに番号位置移動、結合線カットなど調整。(競技者の視点で)
- ・Oマップ作成、コース設定、地図調査は深く関連しており、競技規則を含めた規定類全般を熟知しておくこと。
加えて競技者の視点での見方も重要であり、優れた競技者は優れたコース設定者になり得る。
また、優れたコース設定者、地図調査者は優れた競技者になり得る。

8. EMITシステム

13:30 ~ 13:50 **EMIT類の取り扱い**

- (1) 概要
- (2) 留意点

仕組み、MTRマニュアル、MTR4-ETR4-USBドライバソフト
アルミの支柱の取り扱い、E-Cardの洗浄に注意

留意事項

- ・E-Cardのユニット最大記録数は48である。(スタートユニット+リーディングユニットを含め50)
- ・E-Card、ユニットが正常であることを必ず確認(寿命末期品は特に注意)。
最近ユニットとE-Cardの古い組み合わせで反応しないケースが頻発している。
- ・ユニット(特にスタートユニット)とE-Cardは同梱しない。(同梱は銀紙、新聞紙などで何重にも遮蔽し5cm以上離す)
- ・県協会所有コントロールユニットのコードは121~160であり、ピン穴はセンター軸より下側。
- ・バックアップラベルは4隅を確実にはめ込んだ後中心軸部をはめ込むこと。白色ラベルは外れやすいようである。

9. Mulka2

13:50 ~ 14:50 **計セン準備手順チェックリスト、Startlistの作成手順**

- (1) 概要
- (2) 事前準備
- (3) 当日作業手順
- (4) 留意点

Mulka2マニュアル
事前申し込みリスト、startlist、.coursesV8、E-Card動作確認等
計セン準備手順チェックリスト
パソコン留意事項

留意事項

- ・アクシデントへの対応力を養っておくこと(マニュアル熟読とMulka2画面で種々いじってみる)。
E-Card読み取り不能、番号違い、スタート時刻間違い、ペナがおかしい、ユニットが作動しないetc
- ・パソコンの電源はディスプレイOFFとかスリープ設定をしないようにしておくこと 電源オプション。
- ・Startlist.csvでしか読み込まないので名前変更、excel(拡張子xls、xlsx)はダメ フォルダオプション。
OCADからエクスポートしたコースデータ(13course.coursesV8など)も名前変更はダメ。
したがってイベントごとに関係資料を入れるフォルダは必ず分けておくこと。(ツリー状のファイリングシステムに)
- ・Startlist、出走リスト作成は必ず「コピー & ペースト」で行い、転記ミスがないようにすること。
- ・関連データ(事前申込者リスト、出走リスト、startlist、成績表等)の字体、姓名のスペースは統一しておくこと。
単にコピー & ペーストでは元の字体がペーストされる。セルをダブルクリック後コピー & ペーストする。
- ・バックアップラベル貼付のネームラベルデータ作成はp touch editorを使用しStartlistに接続展開する。
- ・コピーする元データは作業後決して上書き保存しないこと(データが変更されているかもしれない)。
- ・ScoreO、リエゾン区間の設定等について

10. その他

14:50 ~ 15:00

- (1) p touch editorを使用してのネームラベル作成 P-TouchEditorドライバ
- (2) KOKUYOテンプレートカタログを使用しての賞状作成 KOKUYOテンプレートカタログドライバ
- (3) LapCombat2、Lap解析とLap CenterへのUPロードと県協会webサイト(HTML形式)への掲載
- (4) 出走リスト、成績表の作成

11. 実習

15:10 ~ 16:40 希望する優先順位の高いもの

- ・地図調査
- ・OCAD作図
- ・コース設定
- ・OCADコース作図
- ・Mulka2

全般留意事項

- ・ミスは必ずある。何事も間違っているかもしれない視点で多面的なクロスチェックが肝要(思い込みの絶対排除)。
また、間違わないやり方の励行(コピー & ペーストなど)。
この場合でも都度の確認と仕上げの確認が必要。まとめた確認のみではミスが見つかり難い。
- ・何事もやってみるのが一番、習うより慣れよで、最少からうまい(習熟した)人はいない。